

なるたき

NARUTAKI

新見公立大学地域共生推進センター

Vol. 4
2022. 3

目次

- P. 2, 3 教えて！ダムカレー
- P. 4 NIU学校行事
- P. 5 NIU学内アートツアー
第1弾
- P. 6 SAしんぶん



Know more about Niimi & NIU !!

表紙「髪を洗う女」
作者：大桐 国光

～第4号を発行するにあたって～
フリーペーパー「なるたき」は、新見公立大学の
「いいな！」「すごいな！」「伝えたいな！」を
学生目線で発信し、大学と地域をつなぐ役割を担っていきます。



教えて！にいみダムカレー



新見市内でよく見かける**ダムカレー**の旗、一体**ダムカレー**とは何だろう？

そんな疑問を解決すべく、**にいみライスカレー協会**や**ダムカレー提供店**の方々にインタビューをしました！

取材をして行く中で、にいみダムカレーの奥深さを感じ、地域活性化のためのこうした活動が増えていくと良いと思いました。

それでは、全国に誇れる**新見の食材**を使った**ダムカレー**、他では味わえない魅力を紹介します！

ダムカレーってなあに？

一般的に、ダムカレーとは、地域にある特定のダムをモデルに、その特徴や魅力をカレーで伝えるものです。食でもダムを楽しむことができるように、ダムカレーを提供しているお店があります。しかし、新見のダムカレーは特定のダムをモデルとしておらず、主に**2つのルール**があるんです！

- その1 新見市内にある**6基**のダムになぞらえて、ご飯の高さは**6cm以上**とする
- その2 **新見の食材**を一品以上使用してダムカレーを作る



新見市の**地域特性**や**A級食材**を活かした特色あるライスカレーを作り広く提供することを通して、**まちのPR**、**地域に訪れる人を増やす**、**地域経済の活性化を図る**ことを目的に市民有志で活動をしています。また、カレーの販売代金の一部を**災害復旧寄付金**にし、継続した**被災地支援**に取り組むことも目指しています。



にいみライスカレー協会会長 わたなべ まこと 渡邊 誠さん

なぜ、にいみダムカレーを作ろうと思ったのですか？



地域を活性化させたいという思いから新見の食材をおいしく食べる方法を探していました。また、新見の観光地と食材を併せてまちをPRしたいと考えていました。すると、市内には6基もの主要ダムがあり、このことは全国的にも珍しいと分かり、ダムカレーに行き着きました。



にいみダムカレーにどんな思いを込めていますか？

特色あるダムカレーに夢を託し、まち全体を活性化させたいという思いを込めました。そして、地元の人が市外の人に自慢できる名物になってほしいです。

にいみライスカレー協会の今後の目標を教えてください！

今は、新見を主として義援金を渡していますが、今後は日本全国にも支援をすることで恩返しをしていきたいです。

にいみライスカレー協会事務局次長 なかだ よしと 仲田 芳人さん



にいみライスカレー協会を作るに至った理由を教えてください！

新見公立大学健康保育学科の八尋茂樹准教授の「ダムカレー」の話を聞きながら、これを活かせばまちをアピールできる、と直感しました。そこで、ダムカレーを提供するために協会を設立しました。

募金を始めたきっかけを教えてください！

八尋准教授が東日本大震災の支援活動に取り組んで来られたことを受けて、私たちは活動をしてきたため、八尋准教授の思いを宿しておかなければならないと思っています。

にいみライスカレー協会の今後の目標を教えてください！

提供するお店を増やし、食べてみたいという人たちの輪を広げ、ダムカレーをもっと多くの方々に知ってもらおうことが、協会の役割だと思っています。そのために、提供店が増えるように、新しいお店を開拓する活動に力を入れたり、ダムカレーを食べてもらうきっかけを作ったりしていきたいです。その一つとして、イベントに出て、新見のダムカレーについて知ってもらおうと考えています。また、ダムカレーを通して地域間交流をしていきたいと考えています。

Pickup!



ピオニーポーク

一般の豚と比べ薬剤投与を極力抑えている。肉質は極めて柔らかく、脂肪があっさりして臭みが少ないのが特徴。ピオニーとは牡丹の英名で、肉の赤身と脂肪の織なす模様が牡丹に似ていることから名付けられた。



食べてみよう！にいみダムカレー

渡邊さんや仲田さんに取材をしていくうちに「本場のにいみダムカレーを知りたい」という思いから
ぼばいさん、喫茶 標さん、味の庄 伯備さんに取材させていただきました。

『こんなこと聞いてみました』

Q1 ダムカレーを作るうえで苦労したこと Q2 ダムカレーに込めた思い Q3 こだわりポイント

9 ぼばい

Q1. 新見のA級グルメを使うことやダムの堰堤を模したご飯の高さが6cm以上という規定もあり、さらに見栄えを良くするためにはどうしたらいいのかを考えることに苦労しました。

Q2. 見た目がきれいで美味しく食べてもらうということはもちろんのことですが、ダムカレーを通して新見にたくさんのダムがあることを知ってもらいたいです。



(千屋牛オムダムカレー)

Q3. ダムに見立てて堰堤から見た目、おいしさ、ボリューム感を出すことなど総合的に考えました。カレーのルーには、ダム湖にかかる霧をイメージしたふわとろ玉子と、柔らかく煮込んだ千屋牛のフライをトッピングしています。また、そこにかかる粉チーズによって、雪化粧した神秘的な新見のダムを表現しました。

【食べた感想】

千屋牛を煮てから揚げていることで中は柔らかく、外はサクサクで美味しかったです。全体的にボリューム感があり、食べ応え抜群でした。

【お話を聞いて】

様々な工夫が凝らされており、店主の思いが詰まったダムカレーでした。地域活性化のために取り組まれている姿を見習っていきなさいと思います。

ぼばい (新見市新見) 難波 俊之 さん



【引用】にいみライスカレー協会HPより

※ ④Dining Bar Chu Chuさん、⑦Secret Baseさん、
⑩カフェまなびの森さん、の3店舗は現在ダムカレーの提供をされていません

5 喫茶 標

Q1. ダムの堰堤を表現したご飯を崩さないようにすることに苦労しました。

Q2. お客様においしく食べてほしいという思いを込めています。

Q3. 一番のこだわりはカレーの味です。玉ねぎを炒めるころまでが一番大変でした。鶏ガラや野菜などでだしをとっています。そのため、カレーはだいたい二日ほど煮込みます。

【食べた感想】

贅沢に使われたピオニーポークとルーそして口の中で蕎麦の香りがほのかにするご飯は相性がよく、絶品でした。

【お話を聞いて】

お店の方は、ダムカレーを作るにあたって細部までこだわり、お客様に満足のいくカレーを提供しようと取り組まれていました。ダムカレーに対しての思いや取り組まれる姿勢は私たちも見習う部分が多く、有意義な時間となりました。



喫茶 標 (新見市西方)

くにさだ みやこ
國貞 美弥子さん



(ピオニーポークカツダムカレー・そばの香)

6 味の庄 伯備

Q1. ダムカレーを作る上で誰でも手軽に食べられるようにお手軽な価格で、お腹いっぱいになる量にすることに苦労しました。

Q2. ダムカレーには食材のほとんどに地元のものを使うなど、地元食を活かして新見の食文化を活性化していきたいという思いを込めました。

Q3. カレー粉や生姜焼きのタレも手作りで、カレーと生姜焼きがマッチするように研究を重ねました。また、新見の新名物である臭みのないピオニーポークもこだわりポイントです。



(ピオニーポーク生姜焼き
ダムカレー)

【食べた感想】

生姜焼きとカレーの組み合わせは美味しくて、絶妙な味付けでした。

【お話を聞いて】

ダムカレーを作るにあたり研究を重ね、こだわりや工夫が凝らされた一品で、新見の地域活性化に向けた思いがぎゅっと込められていることがわかりました。私たちはその奮励する姿にとて刺激を受けました。

味の庄 伯備 (新見市西方)

まとう なおと
佐藤 直人さん



学内行事

第23回鳴滝祭が開催されました。16の部活、サークル、クラスが模擬店を出店し、ステージではダンス部や軽音部などによる発表が行われました。また、クラス対抗ゲームや抽選会が行われ、盛り上がりを見せました。

コロナ禍で制限がある中、計画性を持ち、状況を見ながら活動していくことは大変でした。しかし、最も強く心に抱いたのは達成感です。参加する学生の皆さんが主体となり、楽しいと思ってもらえる学祭にしたいという思いが強かったです。実行委員の仲間と協力して準備を重ねていく時間は、慌ただしくも楽しく、かけがえのないものとなりました。

鳴滝祭実行委員長 健康保育学科2年 戸田早耶さん



10/9,10

鳴滝祭



今年度、新見公立大学で開催された行事の中から、イベントを4つピックアップし、主催者の方や参加者にコメントをいただきました。



学友会主催のスポーツ大会が約2年ぶりに行われました。学科学年の枠を超えた22チーム、合計164人がバレーボールで汗を流しました。試合はトーナメント形式で行われ、どの試合も白熱していて見ごたえがありました。

スポーツ大会

学友会 看護学科2年 安木夢叶さん



12/4



優勝：チーム「品川に褒められたい」

優勝できて嬉しいです。練習は全員ではできなかったのですが、サークルに入っている人たちで行いました。元から仲が良かったのですが、他学科であり普段関わる機会があまりなかったため、今回のスポーツ大会を通してより仲の良さを深めることができました。

(地域福祉学科3年 長野達也さん)

新型コロナウイルスが流行していたため昨年は開催できず、やり方が分からない中で準備でしたが、みんなから「スポーツ大会をやってほしい！」という声が多くあり、無事開催することができました。クラス間の仲が深まるよい機会だったと思っています。みんな楽しそうにバレーボールをしていてとても嬉しかったです。

舞台目では、合奏や音楽劇、手品、ダンス、演劇を披露し、遊びコーナーでは伝承遊び、科学遊び、段ボール迷路、おはなし、造形遊びを参加者(子どもとその保護者)に体験して頂きました。コロナ禍のため、予約制で参加者を募り、約170名の地域の方々が参加してくださいました。学生も子供たちと一緒に楽しめるひと時となりました。



今回、初めて実行委員を組織し、一から設営や運営を行い、分からないことだらけでしたが、学生同士で意見を出し合い、先生方に助けていただきながら無事開催することができました。コロナ禍でイベントが中止になっている中、子どもたちに楽しい時間を提供することができ、また、学生は子どもたちと直接関わる事が出来た貴重な経験となりました。

実行委員長 健康保育学科3年 高橋光

健康保育学科 発表発表会

にいみゆめのぽけっと



12/11



学友会主催のクリスマス会が行われ、ダンス部や軽音部、有志の人たちがステージ発表を行いました。抽選会もあり、みんなが豪華景品を狙って盛り上がりました。

学友会長 看護学科2年 中村裕希さん



12/18

クリスマス会



去年に引き続き、今年も新型コロナウイルスの感染対策を行いながらの開催となりました。内容や時間も制限された中でしたが、歌やダンス、ギターなどのステージ、そして豪華商品を用意した抽選会を行う事ができました。多くの方々の協力により、とても盛り上がったクリスマス会になったと思います。

NIU学内アートツアー - 第1弾

学内にあるアート作品を紹介します！

新見公立大学には、数多くの美術品が展示されています。その魅力的な美術品を多くの方々に伝えたいという思いから、学内にあるアート作品の紹介を連載していきます。第1弾となる今回は、公文学長へのインタビューをもとに地域共生推進センター練入り口前のライムアートを紹介します。



くもみちるみ
公文学長

ライムアートってなに?!

ライムアートとは、石灰を使った芸術作品です。なみさきふみあき浪崎文彰氏によって独自に開発された「型押し装飾技法」という石灰の凹みに染色した石灰を伏せ込む方法で描き、磨き上げることで、永遠に残るアート作品となっています。

新見市はライムタウン新見と呼ばれるほど石灰産業が盛んです。そのため、本学では地域の基盤産業である石灰を活かしているライムアートを大学のシンボルとして飾っています。本学に展示してあるライムアート三部作には、それぞれの作品に大学に入学して何を学び、卒業してからの人生をどう生きてほしいのかという学長からのメッセージが込められています。

TOKIMEKI



TOKIMEKI ~ 爛漫の春にほとぼしる情熱 ~

将来の夢を抱いて入学した学生たち。やる気に満ち溢れ、情熱を持って人に影響力のある存在になってほしいという思いが込められています。

YASURAGI II



YASURAGI II

~ 学生としての時間の中で凜として厳しい寒さの中で学ぶ ~
新見の厳しい冬の寒さには、学ぶことの厳しさが表現されています。学生として身を引き締めて、勉学に励んでほしいという思いが込められています。

IDOMU III

IDOMU III ~ いつの日にか夢を志にして挑む ~

この絵は、世界一高い山であるエベレストをモチーフに描かれています。夢をかなえるためには、世界一の山に登る挑戦のように高い志を持って挑んでほしいという願いが込められています。



インタビューを終えて

新見の主要産業である石灰を使った美術作品に触れることによって地域の強みや特色などについても知ることができました。また、ライムアートは永遠に輝き続ける美術作品です。それになぞらえて、ここで学ぶ学生とともに新見公立大学が永遠に輝き続けてほしいという願いを込めて飾られていることを知り、読者の皆さんにもこの願いが届いてほしいと思いました。インタビューを通して、ライムアートなどの美術作品の奥深さを知ることができました。美術といえば見て楽しむものだと思っていたのですが、作品に込められたメッセージを理解するうちに作品に対する見え方や感じ方も変わっていきました。公文学長が美術作品に触れることを通して、学生に人間性や夢に向かう姿勢を高めてほしいという強い思いを語られている姿はとても印象的でした。今回、ライムアートという素晴らしい作品を鑑賞することで、自分自身の感性を養うことができたと思います。これから学内のアート紹介を通して作品を鑑賞し、その作品に込められた思いを感じ取って読者の皆さんと一緒に感受性を高めていきたいです。学外の方にも地域共生推進センター練入り口前にあるライムアート、ぜひ見に来ていただきたいです！

SAしんぶん

地域共生推進センターSA（スチューデント・アシスタント）とは共生社会の構築を目指して設立された同センターに所属している学生スタッフのことです。地域行事への参加や地域交流活動の企画・広報活動を行っています。今回はその中の一つを紹介いたします。

11月6日・7日に新見市神郷高瀬地区で、「令和3年度新見庄たたら製鉄体験学習事業」が新見庄たたら学習実行委員会主催で開催されました。このイベントは、たたら製鉄の再現をすることを目的としています。本番に向けた準備と当日のイベントにボランティアでSA8名と一般の学生3名、地域福祉学科の1年生は授業の一環として9名が参加しました。

たたらってなんだろ？



たたらとは、砂鉄を原料に土製の炉の中に木炭を用いて鉄を直接作る方法で、非常に低い温度で精錬します。たたら製鉄は、「たたら吹き」ともいわれ、刀の原料である玉鋼たまがねを含んだ鉄塊を直接作る「けら押し法」と、金属製品の原料となる銑すくを作る「すく押し法」があります。この二つの方法で鉄が作られます。



大学生は、燃料に必要な炭を使う大きさに割る作業から参加しました。そのほかにも粘土作りや下灰作りなど、様々なたたら製鉄に必要な工程を体験しました。準備から本番を通して参加したSAは、「たたら製鉄のイベントに参加して伝統に実際に触れることができ貴重な経験になりました。自分の地元でも伝統あるものに触れることができる機会を大切にしたいです。」
「2日間でたくさん材料を使って多くの準備をしてきて大変だったのに、最終的にできた鉄は3kg程度で鉄を作ることは大変なことなんだと実感しました。」と話していました。
筆者自身もイベントに参加し、実際に体験する大切さを感じました。講義で新見について学んだことがあったので、漠然としたイメージはありましたが、実際に触れることでたたら製鉄の大変さ・すばらしさを感じることができました。これからもSA全体で地域のイベントに参加していきたいです。



感想お待ちしています！

フリーペーパー「なるたき」は皆様のおかげで、第4号を発行することができました。「なるたき」は、地域や大学の情報を発信し、広域連携を図ることを目的としています。「なるたき」のさらなる発展のために、皆様のご意見・ご要望をお聞かせ願いたいです。

下記のお問い合わせ、またはInstagramのダイレクトメッセージまでお気軽にご連絡ください！

お問い合わせ

地域共生推進センター（新見公立大学内）

Tel:0867-72-0634 E-mail:chiikikyousei@niimi-u.ac.jp



編集者

地域共生推進センター SA第3部門

健康保育学科 1年

大崎 有紗 山下 潤子

看護学科 1年

荒川 真七帆 池本 花梨
桂 津紅美 平松 萌々子

地域福祉学科 1年

上満 真子 尾花 仁美

編集後記

フリーペーパー「なるたき」Vol.4 にはいみダムカレや学内の行事や絵画、前回に引き続きSAしんぶんを掲載しました。1年生はSAIに加入してはじめてメインでフリーペーパー「なるたき」を編集しました。

今回「なるたき」を編集するにあたって多くの方に支えていただきました。

「なるたき」編集にご協力いただいた皆様、「なるたき」に目を通してくださった皆様、本当にありがとうございます。これからも地域や大学の情報をお伝えしていくために引き続き精進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。